

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102120
法人名	医療法人たくま会
事業所名	グループホームせと
所在地	松山市余戸南2丁目19-33
自己評価作成日	平成21年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 7月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

所内外での研修活動に力を入れており、法人代表者の理解もある。職員それぞれが役割を持って、サービス向上に努めている。地域交流も盛んで、開設当初から良い関係が持てている。今後も交流を深めていき、より地域に根付いた、地域に必要とされる事業所を目指したい。またさまざまな行事で地域、ご家族と関わる機会を多く持っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立当初から地域密着の大切さを認識し、町内の人たちと良い関係を築いている。ホーム主催の夏祭りは町内行事の中に取り入れられ、400人余りの人が楽しむイベントになっている。運営主体は医療法人なので重度化や終末期に向けた介護にも力を注いでいる。看護師・介護福祉士・ケアマネージャー・ヘルパーなど有資格のスタッフも多く、職員の質の向上にも積極的である。家族の面会も多く、家族や地域のボランティアにも支えられながら、ホテルを幼虫から飼育し「ホテル祭り」も開催している。自主防災班を中心に、グループホームでの訓練では地域の人にも参加してもらい、町内の訓練の時は、プロジェクトなどの貸し出しもしてお互い協力し合っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームせと
(ユニット名)	さくら
記入者(管理者)	
氏名	大下まゆみ・蔭谷きよみ
評価完了日	平成21年6月20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所理念を職員がつくりあげ、地域にも理解してもらえるように伝えるようにしている。また職員も共有し、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 「明るく 楽しく 穏やかに」という短く解りやすい理念を皆で十分話し合っ決めてしている。そのことにより、管理者と職員は理念の意識づけと共有ができており、実践にも繋げてケアに反映させている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 事業所が地域行事に参加したり、ホームの行事に地域の方が参加してくださっている。また職員は散歩等の際には積極的にあいさつし、地域との方と会話する機会を持つようにしている。</p> <p>(外部評価) 地域の一員として町内会に入り、回覧板などで情報を得ている。町内会の会議にもホームから参加し、ホームが主催するホタル祭り・夏祭りなどは町内行事として受け入れられている。互いに顔なじみになり挨拶などもよくするので、地域の人とのつながりは年々深くなっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を定期的に関き、地域の方にも参加していただき、認知症の方の支援や日常生活状況、事業所の活動など伝えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を開き、ホームの取組状況を伝え、意見を聴き、サービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に一回、15人程度の参加を得て開催している。日程が町内会の年間行事と重ならないようにしたり、町内会の希望する時間帯に配慮するなど、出席しやすい工夫をしている。活発な意見がよく出るので、一つひとつを検討しサービスの向上に活用している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の担当職員、地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議に参加していただき取組み状況を伝え、報告依頼があった場合には、意見交換会等で他のホームにも状況を伝えたりして積極的に協力関係が築けるようにしている。	
			(外部評価) 市の担当者に運営推進会議に参加してもらったり、地域包括支援センターの会議を通じてホームの取組などを報告している。車いすやベッドの負担金の変更など疑問が生じた時は、その都度、市に問い合わせている。普段から連絡を密に取るようにしているので、新しい情報も得やすい環境にある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員は身体拘束の弊害等について手引きや学習会を通して理解しており、拘束は行っていない。主治医の意見より必要な場合には時間、場所等を最低限にし、ご家族に同意を得て、定期的に見直している。	
			(外部評価) 身体拘束をしないよう、研修会でも学習し、日々のケアの中で利用者ごとの活動パターンを把握し、時間帯や場面などをみながら職員がサポートするようにしている。ベッドの位置を変えるなど工夫して、迅速な対応に努めている。どうしても必要な時は、家族に説明のうえ同意書を取っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待に関するファイルにつづって職員が理解できるようにしており、毎日の生活で虐待がないケアがされているか注意を払っている。また虐待に関する記事が掲載されたりすると回覧して読み、日頃のケアを振り返るようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 各ユニットに成年後見制度に関するファイルがおり、いつでも学習できるようにしている。又は研修でも機会があり、理解できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族会、カンファレンスを行い、文章化して説明している。納得いくよう、時間をかけて説明して同意書を得るようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会、カンファレンス、運営推進会議、面会時に意見や要望を聞き、意向に添えるよう努めている。  (外部評価) 面会に来られる家族が多いので、職員は家族や利用者が気軽に意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。いただいた意見や要望などは記録に残し、職員でも話し合って迅速に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンス、個人面談等で職員の意見、提案を聞き反映できるようにしている。  (外部評価) 個人面接などの機会はあるが、言えない人もいるので、普段の話の中から読み取るようにしている。職員が少ない時は、ユニット間で協力している。また、他の施設との代表会などで改善点を検討し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 実績、勤務状況は月1回の運営会議や日々の来所で把握に努めている。給与水準等がやりがいにつながっているか不明な点もあるが、職場環境、組織体制とも管理者、代表者は改善に向け努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 所内外の研修参加に対しては積極的に協力が得られ、勤務扱いでの研修参加の機会も多い。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修やGH同士の意見交換会・勉強会などで交流の機会がある。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前に本人と話す場をつくったり、日常のケアの中で、コミュニケーションを大切に、よく話を聴くようにしている。また本人が話したいタイミングを逃さないようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用初期はできるだけ面会の回数を多くもっていただき、何での話せるよう積極的にコミュニケーションを持つようにしている。また意向、疑問、不満があった場合には早急に話し合う機会を持つように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 管理者、介護支援専門員が本人、ご家族と話し、必要な支援を見極めるようにし、その後ユニット間でカンファレンスを開いて話し合うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人、一人を尊重し、一緒に家事をするなど、生活を共にする者同士として、良い関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の思いを聴き、カンファレンスにも参加いただき、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の馴染みのある物や人、場所を大切に、ご家族からも話しを聴き、協力を得、それが途切れないように努めている。  (外部評価) 利用者の友達が遊びにきてフロアで話して帰ったり、家族の面会も多く、お孫さんがひ孫を連れてきたりすることもある。デイサービスの利用から入居した人などは、隣のデイサービスに遊びに行ったり、友達を連れてきたりしている。一人ひとりの人間関係や馴染みの美容院・理髪店など、継続的な交流を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が共に過ごす時間を大切にし、声をかけあい、助け合い、支えあえる微笑ましい場面が見られる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて他の施設を紹介したり、相談に応じている。また入院した場合でも面会、電話等で状況を把握し、相談に応じている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人、一人の暮らしてきた生活暦を大切に、必要な情報を収集してケアにつなげるようにしている。  (外部評価) 一対一での会話を重要と考えて、昔話を聞くなど自然な形で本人の希望や意向の把握に努め、自宅に帰りたい人には外出支援をするなどケアに活かしている。困難な場合は、家族から情報を得ることもある。細かく記録をし、職員でも共有して、どのような暮らし方が最良なのか検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) フェースシート、アセスメントの際にこれまでの暮らし、サービス利用状況は、本人、ご家族から聞き取りながら情報の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常生活を観察したり、本人とコミュニケーションをとりながら、記録、申し送り、職員間のカンファレンスを通して現状の把握に努めている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月ケアプラン見直しの必要性の有無を確認し、プラン見直し時期にはカンファレンスを開き、本人、ご家族、主治医の意見を確認し、職員間で話し合って作成している。  (外部評価) 職員、利用者、家族（参加できない人にはコピーを送る）みんなで話し合い、本人本意の介護計画を作成している。各ユニットにケアマネジャーと計画担当者があるので、細かいところまで目が届き、職員からの意見も汲み取りやすい。状況に応じた迅速な見直しも行っており、次に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアの実践、結果、気づきが常に意識できるように、カードックスを利用し、全職員がプランを意識できるように工夫している。また常にプランを確認することで情報の共有につなげている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとり、その場に応じて臨むサービスを協議して柔軟に支援している。例えば受診介助等・・・	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 避難訓練時には地域と合同で実施したり、地域の防災組織の一員となり、町内会の方の力添えがある。またボランティアの方や商店など、力を借りながら生活している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) できるだけ本人のかかりつけ医との関係が維持できる ように配慮している。また、特にかかりつけ医がない 場合には協力医療機関の医師が法人代表者でもあるた め、適切な支援が受けられる。  (外部評価) 馴染みの医師による継続的な受診や、本人および家族 の希望を大切にしている。入居前からのかかりつけ医 は、個人病院の場合は職員が通院介助をし、総合病院 など待ち時間のかかる病院の場合は、家族の協力を得 ている。説明が必要な時などは職員も同行し、適切な 医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ユニット内に看護職員がおり、また必要に応じて他の ユニットの看護職員、協力医療機関の看護師が健康管 理のために責任もって対応してくれている。また夜間 においても支援が受けられる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ユニット責任者、管理者、介護支援専門員が中心と なって医療機関との連携を密に行い、情報交換に努め ている。また退院時の計画に関してもカンファレンス に参加して積極的な支援に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時から話し合うようにしており、重度化、終末期 には、ご家族と密に連絡をとりあい、ご家族、本人が 不安にならないように主治医を含めて、チームで取り 組んでいる。  (外部評価) 終末期のあり方についてのマニュアルは具体的で、対 処方法など細かいノウハウを職員が共有でき、家族の 不安を取り除く努力をしている。すでに看取りの経験 もあり、看護師が24時間体制で対応し、医師も5分 程度で来られる体制なので、職員も安心して支援でき る。	医師・看護師・介護福祉士・ケアマネジャー・介護士 などスタッフに恵まれているが、職員のストレスなど にも留意しながら、今後もチームケアの勉強を継続さ れることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルから学習して緊急時に備えている。また看護職員を中心に研修したり、所外研修にも積極的に参加している。介護職員はどうしても実践力に不安があるので、更なる研修が必要である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災マップ上の一時避難所にもなっており、地域の防災訓練に参加して地域の事業所、高齢者の住む事業所をして認知してもらっている。また町内会長が緊急連絡網に入っている。  (外部評価) 地域住民の協力を得て年2回の防災訓練を実施している。車いすの人をホーム2階から降ろす訓練や、夜間を想定しての抜き打ちの職員召集なども行っている。ホーム内にも自主防災班があり、倉庫には水・食料・衛生用品などを備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の自尊心を傷つけないよう、生きてきた誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。またケアプラン作成時にも、重要視している。  (外部評価) おむつ交換の時は部屋のドアを閉めて行い、トイレ誘導は利用者の様子を見ながらさりげないケアに努めるなど、職員は利用者一人ひとりの気持ちや人格を尊重しながら、言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者とのコミュニケーションの時間を大切にしており、ゆっくり対応しながら、思いや希望を確認している。また本人が自己決定できるよう、働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の生活パターンに大切にし、その人のペースに合わせて支援している。その日の暮らし方も利用者に合わせてるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人の好むおしゃれができるように本人、ご家族に確認しながら支援している。またホームに訪問の美容師が来て利用できる。本人の服装についても、選べる利用者については、朝一緒に選んだりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と職員と一緒に食事作りを楽しみながら行っている。利用者の中にはそれが役割として生きがいにもつながっている。朝畑の野菜を採りにいっては食卓にのせたりしている。また職員、ボランティアの方も一緒に食事してその時間が楽しい雰囲気になるように努めている。 (外部評価) 代表者の家族が自家栽培の野菜も活用し、献立を立てている。利用者の誕生日には、その方の希望を優先している。健康に注意しながらも利用者の希望を第一に考え、お好み焼きなど急な希望が出ても臨機応変に対応している。職員と共に食事と会話を楽しむことを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分チェックを行い、また食事摂取量についても毎回チェックしている。食事量が少ない場合には、別のメニューにしたり、好みに応じて工夫している。中にはパン食を好んだりされる方もいるので、要望に応じるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 声かけ、見守りで毎食後の口腔内の清潔ができる方、全介助の方といらっしゃるが、それぞれに応じた方法で毎食後支援している。必要な方には歯科衛生士によるケアを定期的にしていただき、職員が指導を受けるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人、一人の排泄パターンに応じてトイレ誘導したり、サインを見逃さないようにしている。夜間においても本人の状態に応じて支援している。	
			(外部評価) 職員は、トイレに行こうとするサインを読み取るなど、個々の排泄パターンを把握し、自立にむけた支援をしている。一人ひとりの情報を記録し、職員全体が共有するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェックを行い、野菜、果物を多くとれるように、工夫している。また水分量もチェックしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間帯は、職員の多い昼から夕方にかけて支援することが多い。しかし、一人ひとりの状態に合わせてできるだけ柔軟に支援している。	
			(外部評価) 就寝前の入浴を希望する人、一日2回シャワーとお風呂を希望する人、毎日入浴を希望する人など、一人ひとりの希望や本人の体調に応じた入浴を支援している。嫌がる人にはタイミングを見計らって、週2回の入浴を目標に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 無理に消灯時間を決めるわけではなく、一人、ひとりの生活リズムを大切にしている。また昼の休憩も本人に確認しながら、室内環境もその都度本人に確認したりして支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬シートがあり（服用方法、作用、副作用を記載）、薬の現物を使用して作成しているので、誰にでも分かるようにしている。またできるだけ分包してもらって飲み忘れ、誤薬を防いでいる。週1回看護職員が服薬チェックを行い、主治医と連絡調整している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の得意なことから、役割を持てるように支援している。（掃除、調理、洗濯など）また、男性にはカラオケ時に出番があり、気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご家族、本人の希望で帰宅したり、ユニット職員が協力しあって、日頃行けないような場所にも外出支援している。外出時にはご家族にも協力を求めたりして、利用者と過ごす時間を楽しんでもらうようにしている。  (外部評価) 車いすでも外出できるよう、前庭に東屋風の休息所を作っており、地域の人が立ち寄りやすい環境になっている。ホーム前の喫茶店を利用したり、ショッピングや花火を見に出かけたり、また天気の良い日には近くを散歩したりするなど、個人の希望に合わせた外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 預かっている小遣いを持って、移動販売のパン、果物などの買い物を楽しみにしている。また利用者によっては職員と一緒に買い物に行って本人が買うことができるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人からの希望があれば、電話をかける支援をしている。手紙についても、代行して支援することもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関には季節の花をご家族が持ってきてくださり、生けたり、外の花壇から摘んで生けている。手すり等は朝、昼と塩素系の溶液で消毒し、床も塩素系の溶液で拭き掃除している。日中は食事作りの臭いが食欲をそそる。空間の広さも、車椅子で自走できるような広さを確保している。</p> <p>(外部評価) 前庭の東屋、ホタルを飼育している川、金魚に餌をやることのできる池など、ホーム周辺を共用空間の一部と捉え五感を刺激する工夫がある。花壇の花は、生け花を好む利用者のために自由に切ることができる。各ユニットごとに、居間のソファの配置などを利用者の好みに合わせて変えられるよう配慮している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ユニット内にソファが二つあり、TVも二つあって、気の合った利用者同士が過ごせるような空間になっている。また外の敷地にも自由にでられて、外気に触れることができる。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人、ご家族と相談しながら、また安全に配慮して家具やベッドの位置を工夫している。部屋に家族の写真を張ったり、仏壇をおいて、それぞれ個別性のある居室となっている。</p> <p>(外部評価) 居室には、仏壇をはじめ各自が自宅から馴染みのものを持ってきている。カーテンも防炎加工であれば、好みのものを付けられる。壁にはフックがあるので、飾り物を吊ったり洋服を掛けたり、使いやすい工夫がされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) それぞれのレベルに応じて、ベッドの位置を工夫している。（ホールからも見守りが必要な方は顔の見えるような位置にしている。）車椅子で自走できる空間、必要な箇所への手すりの設置など、年々改善している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102120
法人名	医療法人たくま会
事業所名	グループホームせと
所在地	松山市余戸南2丁目19番33号
自己評価作成日	平成21年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 7月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニットに看護職員が2名づつ配置されているので、健康管理、異常の早期発見、緊急時にはすぐに対応できる。医者もすぐにつけてくれる。  
 運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、地域の方にも参加していただき、意見交換をしたり、地域の行事の情報なども教えていただきながら地域との連携を図っている。せとでの行事にも参加していただいている。  
 職員のスキルアップのために、レベルに応じた研修に参加して貰っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立当初から地域密着の大切さを認識し、町内の人たちと良い関係を築いている。ホーム主催の夏祭りは町内行事の中に取り入れられ、400人余りの人が楽しむイベントになっている。運営主体は医療法人なので重度化や終末期に向けた介護にも力を注いでいる。看護師・介護福祉士・ケアマネージャー・ヘルパーなど有資格のスタッフも多く、職員の質の向上にも積極的である。家族の面会も多く、家族や地域のボランティアにも支えられながら、ホテルを幼虫から飼育し「ホテル祭り」も開催している。自主防災班を中心に、グループホームでの訓練では地域の人にも参加してもらい、町内の訓練の時は、プロジェクトなどの貸し出しもしてお互い協力し合っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームせと

(ユニット名) たんぼぼ

記入者(管理者)  
氏名 大下まゆみ・蔭谷きよみ

評価完了日 平成21年6月20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所独自の理念を作成し、各ユニットに明示し、誰でも見ることができるようにしている。会議等で理念の共有を深め、実践につながるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 「明るく 楽しく 穏やかに」という短く解りやすい理念を皆で十分話し合っ決めて決めている。そのことにより、管理者と職員は理念の意識づけと共有ができており、実践にも繋げてケアに反映させている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に加入し、地域行事や活動には積極的に参加している。(運動会、夏祭り、盆踊り、川掃除など) ホームの行事にも地域の方に声をかけて参加していただいている。(蛍鑑賞会など)</p> <p>(外部評価) 地域の一員として町内会に入り、回覧板などで情報を得ている。町内会の会議にもホームから参加し、ホームが主催するホタル祭り・夏祭りなどは町内行事として受け入れられている。互いに顔なじみになり挨拶などもよくするので、地域の人とのつながりは年々深くなっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、認知症の理解や支援方法を知っていただけるように努めている。地域の様々な研修や会合にも参加している。 家族の認知症の対応など、いつでも気軽に相談を持ちかけていただくようお願いしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 取り組み状況、年間計画など、地域の方、市の職員、利用者、家族に参加していただいて伝えている。要望、意見を聞き、サービスの向上に努めている。地域からも情報を提供していただき、意見交換や報告などを行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に一回、15人程度の参加を得て開催している。日程が町内会の年間行事と重ならないようにしたり、町内会の希望する時間帯に配慮するなど、出席しやすい工夫をしている。活発な意見がよく出るので、一つひとつを検討しサービスの向上に活用している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営、ケアサービスの不明な点などについて連絡を取り相談している。運営推進会議にも参加していただき、取り組みなど伝え協力していただけるよう努めている。	
			(外部評価) 市の担当者に運営推進会議に参加してもらったり、地域包括支援センターの会議を通じてホームの取組などを報告している。車いすやベッドの負担金の変更など疑問が生じた時は、その都度、市に問い合わせている。普段から連絡を密に取るようにしているので、新しい情報も得やすい環境にある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中はカギをかけず、門を開放している。身体拘束ゼロの手引きを各ユニットに置いて理解を深めて貰い、拘束しないケアに努めている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないよう、研修会でも学習し、日々のケアの中で利用者ごとの活動パターンを把握し、時間帯や場面などをみながら職員がサポートするようにしている。ベッドの位置を変えるなど工夫して、迅速な対応に努めている。どうしても必要な時は、家族に説明のうえ同意書を取っている。	特に見守りや支援を必要とする人のところに職員を多く配置するなど、身体拘束をしないケアの実践に真摯に取り組んでいるが、家族の理解を得られたとしても、拘束をしないで済むケアを目指して勉強を続けられることに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の記事を回覧で回し、見過ごすことがないように努めている。高齢者虐待法については学ぶ機会を作っていきたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度についてのファイルを作り、各ユニットに置いている。現在必要性のある利用者はいないが、きちんと理解し、活用できるようにしていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ゆっくり時間をとり、十分な説明をし、理解していただけるようにしている。不明な点などは聞いていただき、納得できるよう説明している。改定などがあつたときは、家族会を開いたり、手紙を送って承認をいただくなど周知徹底を図っている。ターミナル、医療面などはその都度説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時、家族会などで意見、要望などを出していただき、全スタッフが共有し話し合い、きちんと対応できるよう努めている。  (外部評価) 面会に来られる家族が多いので、職員は家族や利用者が気軽に意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。いただいた意見や要望などは記録に残し、職員でも話し合って迅速に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 個別面談をするなどして、意見や提案を聞く機会を作っている。代表者にもこの内容を伝え、できる限り反映できるように努めている。  (外部評価) 個人面接などの機会はあるが、言えない人もいるので、普段の話の中から読み取るようにしている。職員が少ない時は、ユニット間で協力している。また、他の施設との代表会などで改善点を検討し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 幹部職員が職員の勤務状況、役職などを考慮して昇給などの案を作成し、経営者と相談しながら待遇面を決定している。職員のやりがいを考え、毎年少しづつでも昇給を実行している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員のレベルに応じて研修を受けて貰っている。県内外で行われる研修会などには職員が参加しやすいよう、費用面についても支援している。研修後には報告書を書いて貰い、会議などで発表したり、学習会を開催するなどして共有している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会に加入し、他のグループホームとの交流を図っている。研修などで情報交換をし、サービス向上につながるよう努めている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 訪問調査で生活状況の把握に努めている。事前に面談を行い、不安なこと、要望などを聞き、安心していただけるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の苦勞、不安なこと、要望など相手の身になって話を聞き、事業所でどのような対応ができるか、きちんと話し合いをして関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の状況を把握し、その時必要な支援を見極め、サービス利用ができるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) コミュニケーションをとりながら、そばに寄り添い、信頼関係が築けるよう努めている。洗濯物をたたんだり、食事の準備、片づけを一緒に行うなどして支えあう関係づくりをしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日々の出来事、体調変化などの情報を共有し、本人と一緒に支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) いつでも面会に来ていただけるようにしているし、電話や手紙なども自由にやりとりしていただいている。関係が途切れないよう家族の方へ協力の働きかけを行っている。  (外部評価) 利用者の友達が遊びにきてフロアで話して帰ったり、家族の面会も多く、お孫さんがひ孫を連れてきたりすることもある。デイサービスの利用から入居した人などは、隣のデイサービスに遊びに行ったり、友達を連れてきたりしている。一人ひとりの人間関係や馴染みの美容院・理髪店など、継続的な交流を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事のとき声をかけるなど利用者同士が関わり、支え合っている。孤立しないよう配慮し、支援するよう努めている。感情や気分も変化するため、注意深く見守っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院したときは、面会に行き状況把握に努めている。必要に応じて相談に乗り、支援していくようつとめている。その後の経過状況を把握し、フォローできるよう支援している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) できる限り、思いや希望にそえるよう支援している。きちんと把握するよう本人や家族に思いや意向を聞いている。家族の協力が得られず困難なこともある。  (外部評価) 一対一での会話を重要と考えて、昔話を聞くなど自然な形で本人の希望や意向の把握に努め、自宅に帰りたい人には外出支援をするなどケアに活かしている。困難な場合は、家族から情報を得ることもある。細かく記録をし、職員でも共有して、どのような暮らし方が最良なのか検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) フェイスシートを家族に渡し、記入していただき、バックグラウンドの把握に努めている。馴染みのものを持ってきていただくようにしている。在宅時の家を訪問し、生活環境を確認したりしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの過ごし方を理解し、観察、見守りを常に行い、心身状態、現状の把握に努めている。少しの変化も見逃さないように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 本人や家族の希望を聞いたり、職員の気づきや意見を取り入れて話し合いを行い、一人ひとりの現状に合わせた介護計画を作成している。この場合できるだけ家族、本人に参加していただいている。状態に変化があれば、その都度話し合いを行い、新たな計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 職員、利用者、家族（参加できない人にはコピーを送る）みんなで話し合い、本人本意の介護計画を作成している。各ユニットにケアマネジャーと計画担当者があるので、細かいところまで目が届き、職員からの意見も汲み取りやすい。状況に応じた迅速な見直しも行っており、次に繋げている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別記録に水分、食事、排泄など身体状況、日々の暮らしの状況、気づいた点など記録に残すなどして情報を共有している。重要なことはラインを引くなどして介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 通院や送迎など必要な支援には柔軟に対応し、支援している。特に体調面での受診には柔軟に対応している。利用者が急に何かを買って欲しい要望が出た場合などはなるべくすぐに対応するようにしている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域の方に声をかけ、何かあったときは協力が得られるよう働きかけている。消防、警察とも意見交換の機会を設けている。地域包括支援センターの職員とも情報を共有し、協働している。</p>	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診や通院は本人、家族の希望に応じて支援してい る。かかりつけ医との情報交換を密にし、共有できる よう支援している。	
			(外部評価) 馴染みの医師による継続的な受診や、本人および家族 の希望を大切にしている。入居前からのかかりつけ医 は、個人病院の場合は職員が通院介助をし、総合病院 など待ち時間のかかる病院の場合は、家族の協力を得 ている。説明が必要な時などは職員も同行し、適切な 医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 各ユニットに1名以上看護職員がおり、利用者の健康 管理や状態の変化に応じた支援ができるようにしてい る。医療機関との連携があり、緊急時の対応がすぐに とれる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) サマリーに詳しく状況を記入し、情報交換をしてい る。医師、ナース、ご家族より状態を聞いたり、相談 しながら、早期退院に向けて協働している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期のケアに関する指針を定めており、入 居時に説明している。本人や家族の希望を聞き、どこ まで対応できるか、職員も一緒に話し合い、Dr、 ナース、介護福祉士、家族共々支援に取り組んでい る。	
			(外部評価) 終末期のあり方についてのマニュアルは具体的で、対 処方法など細かいノウハウを職員が共有でき、家族の 不安を取り除く努力をしている。すでに看取りの経験 もあり、看護師が24時間体制で対応し、医師も5分 程度で来られる体制なので、職員も安心して支援でき る。	医師・看護師・介護福祉士・ケアマネジャー・介護士 などスタッフに恵まれているが、職員のストレスなど にも留意しながら、今後もチームケアの勉強を継続さ れることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当、急変時の対応について研修を行っている。マニュアルを作成し、各ユニットに置き、いつでも見られるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力も得ながら、定期的に避難訓練をしている。地域の方にも訓練に参加していただき、協力が得られる体制を築いている。夜間の緊急時の召集訓練も行っている。  (外部評価) 地域住民の協力を得て年2回の防災訓練を実施している。車いすの人をホーム2階から降ろす訓練や、夜間を想定しての抜き打ちの職員召集なども行っている。ホーム内にも自主防災班があり、倉庫には水・食料・衛生用品などを備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 穏やかな言葉かけや対応ができるよう、気を配っている。プライバシーを損なわないよう、対応にも気をつけている。  (外部評価) おむつ交換の時は部屋のドアを閉めて行い、トイレ誘導は利用者の様子を見ながらさりげないケアに努めるなど、職員は利用者一人ひとりの気持ちや人格を尊重しながら、言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人に聞きながら、自己決定できるよう支援している。意思表示の難しい利用者は、表情やしぐさから読み取るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できるだけ一人ひとりのペースに合わせて支援するようにしている。食事の時間なども同様である。 外出など希望に添えないこともある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出張美容師さんに来て貰い、本人の希望を聞きながら散髪をしている。 行きつけの美容室に行かれている方もいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 簡単な下ごしらえをして貰っている。食器拭きを手伝って貰ったり、下膳をして貰ったりしている。盛り付けを工夫して、食事が楽しみになるよう工夫している。こちよいBGMも流している。 (外部評価) 代表者の家族が自家栽培の野菜も活用し、献立を立てている。利用者の誕生日には、その方の希望を優先している。健康に注意しながらも利用者の希望を第一に考え、お好み焼きなど急な希望が出ても臨機応変に対応している。職員と共に食事と会話を楽しむことを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量をチェックしたり、必要な方は水分量もチェックしている。食事量の少ないときなどはカロリーの摂れるもので対応している。おにぎりにするなど自力摂取できるよう工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアが行えるよう支援している。一人ひとりの状態に応じた見守りや介助をしている。ポリデントを使用して清潔保持にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。できるだけトイレで排泄できるよう支援している。個々の状態に応じて、パッド、紙パンツ、布パンツなどで対応している。	
			<p>(外部評価)</p> 職員は、トイレに行こうとするサインを読み取るなど、個々の排泄パターンを把握し、自立にむけた支援をしている。一人ひとりの情報を記録し、職員全体が共有するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 水分をきちんと摂って貰ったり、食物繊維の多いものを摂って貰ったりしている。少し運動不足があるように思うので、なるべく体を動かして貰うよう努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 一人ひとりの希望に合わせて入浴して貰っている。チェック表を作り、入浴の状況を把握している。一人ひとりのニーズに合わせて、健康状態も考えながら入浴して貰っている	
			<p>(外部評価)</p> 就寝前の入浴を希望する人、一日2回シャワーとお風呂を希望する人、毎日入浴を希望する人など、一人ひとりの希望や本人の体調に応じた入浴を支援している。嫌がる人にはタイミングを見計らって、週2回の入浴を目標に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> その日の体調や本人の希望に応じて昼寝をして貰っている。日中はよく活動して貰い、夜間は安眠できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、一人ひとりが服薬している薬について理解するよう努めている。カードックスにも記入し、すぐ見れるようにしている。薬は職員が管理し、一人ひとりの内服を確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 踊り、歌などの演芸やフラワーアレンジメントなどを楽しみに行ったり、イベントにも参加して貰うよう支援している。庭へ出たりして気分転換を図っている。楽しみごとや気分転換は、車椅子の利用者が多くなった所為もあり、あまり活発ではないが、毎朝のラジオ体操は車椅子の利用者も楽しみにして庭に出てくる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 全体的な外出や季節ごとの外出は計画を立てて行っている。車椅子の利用者が多い為、一人ひとりの希望を聞いての対応が難しいのでちょっとした外気浴にとどまっている。家族の協力もあり、外出できている利用者もいる。 (外部評価) 車いすでも外出できるよう、前庭に東屋風の休息所を作っており、地域の人が立ち寄りやすい環境になっている。ホーム前の喫茶店を利用したり、ショッピングや花火を見に出かけたり、また天気の良い日には近くを散歩したりするなど、個人の希望に合わせた外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望や能力に応じて、所持できる利用者には少額所持していただき、自分で使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があるときは、電話も手紙もいつでもやり取りできるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) トイレ、浴室などを清潔に保ち、臭いにも気をつけ、不快のないようにしている。料理の臭いや音などで生活感のある環境を作り、花などを飾るなどして居心地良く過ごせるよう支援している</p> <p>(外部評価) 前庭の東屋、ホタルを飼育している川、金魚に餌をやることのできる池など、ホーム周辺を共用空間の一部と捉え五感を刺激する工夫がある。花壇の花は、生け花を好む利用者のために自由に切ることができる。各ユニットごとに、居間のソファの配置などを利用者の好みに合わせて変えられるよう配慮している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホールにソファを置いており、思い思いに過ごせるよう工夫している。テーブル等の配置も工夫している。ホール、居室を思い思いに使って過ごされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人の使い慣れたものを持ってきていただき、居心地良く過ごせるよう配慮している。壁に写真や絵を貼ったりして工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室には、仏壇をはじめ各自が自宅から馴染みのものを持ってきている。カーテンも防炎加工であれば、好みのものを付けられる。壁にはフックがあるので、飾り物を吊ったり洋服を掛けたり、使いやすい工夫がされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) バリアフリーで手すりがついており、できるだけ自立した生活が送れるような環境づくりをしている。ここにこんな手すりがあったら良いなどの提案があれば、大工仕事のできる職員が即取り付けてくれている。トイレなど共有部分には混乱しないよう紙に書いて貼っている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102120
法人名	医療法人たくま会
事業所名	グループホームせと
所在地	松山市余戸南2丁目19-33
自己評価作成日	平成21年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 7月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営推進会議が定期的に関われ、諸行事を通し、地域との連携を図っている。研修担当者を中心に所内外の研修に積極的に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立当初から地域密着の大切さを認識し、町内の人たちと良い関係を築いている。ホーム主催の夏祭りは町内行事の中に取り入れられ、400人余りの人が楽しむイベントになっている。運営主体は医療法人なので重度化や終末期に向けた介護にも力を注いでいる。看護師・介護福祉士・ケアマネージャー・ヘルパーなど有資格のスタッフも多く、職員の質の向上にも積極的である。家族の面会も多く、家族や地域のボランティアにも支えられながら、ホタルを幼虫から飼育し「ホタル祭り」も開催している。自主防災班を中心に、グループホームでの訓練では地域の人にも参加してもらい、町内の訓練の時は、プロジェクトなどの貸し出しもしてお互い協力し合っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームせと

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)  
氏名 大下まゆみ・蔭谷きよみ

評価完了日 平成21年6月20日



(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 明るく、楽しく、穏やかにを理念とし、入居者の地域参加、地域住民との交流を大切にし、入居者それぞれが、その人らしく暮らせるように支援している。	
			(外部評価) 「明るく 楽しく 穏やかに」という短く解りやすい理念を皆で十分話し合っていて決めている。そのことにより、管理者と職員は理念の意識づけと共有ができており、実践にも繋げてケアに反映させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内会の行事等に積極的に参加している。また、ホームの行事である、蛍観賞、夏祭りなどが町内会の行事の一つになっている。	
			(外部評価) 地域の一員として町内会に入り、回覧板などで情報を得ている。町内会の会議にもホームから参加し、ホームが主催するホタル祭り・夏祭りなどは町内行事として受け入れられている。互いに顔なじみになり挨拶などもよくするので、地域の人とのつながりは年々深くなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議、町内会等において、また防災に関する取り組みの中で、認知症の理解、入居者の方の生活を理解していただけるよう機会あるごとに伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議には、町内会の役員の方、御家族が参加され、日々の取り組みや、ホームの行事の参加の呼びかけ、気軽に意見が言い合える関係性ができており、参加できなかった職員、御家族にも内容を報告し、その意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に一回、15人程度の参加を得て開催している。日程が町内会の年間行事と重ならないようにしたり、町内会の希望する時間帯に配慮するなど、出席しやすい工夫をしている。活発な意見がよく出るので、一つひとつを検討しサービスの向上に活用している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議で、市の担当者の方に参加していただき、日頃の取り組みを積極的に伝え、協力関係を築いている。</p> <p>(外部評価) 市の担当者に運営推進会議に参加してもらったり、地域包括支援センターの会議を通じてホームの取組などを報告している。車いすやベッドの負担金の変更など疑問が生じた時は、その都度、市に問い合わせている。普段から連絡を密に取るようにしているので、新しい情報も得やすい環境にある。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 「身体拘束の手引き」等使って、正しく理解できるようにしている。玄関の施錠をせず、入居者が一人で敷地内を歩いているときなどは、事務所の職員も入居者に声をかけたり、見守りをしている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしないよう、研修会でも学習し、日々のケアの中で利用者ごとの活動パターンを把握し、時間帯や場面などをみながら職員がサポートするようにしている。ベッドの位置を変えるなど工夫して、迅速な対応に努めている。どうしても必要な時は、家族に説明のうえ同意書を取っている。</p>	特に見守りや支援を必要とする人のところに職員を多く配置するなど、身体拘束をしないケアの実践に真摯に取り組んでいるが、家族の理解を得られたとしても、拘束をしないで済むケアを目指して勉強を続けられることに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) マニュアルを作成している。また、研修会、勉強会に参加したり、関連記事等があれば、読み合わせる等して防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度に関するファイルを各ユニットに置き、いつでも閲覧できるようにしている。また、家族から相談を受けた時や、それ以外でも必要に応じて活用を支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 介護報酬改定の際には家族会等で、料金改定内容を説明し、十分理解が得られるように配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホームの行事、家族会、ご家族の来所時に意見を聴き、迅速に対応することを目指して、カンファレンスを開催するようにしている。  (外部評価) 面会に来られる家族が多いので、職員は家族や利用者が気軽に意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。いただいた意見や要望などは記録に残し、職員でも話し合って迅速に対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンスで意見を出し合い、そこで出た意見などを、責任者会議、運営会議に反映している。また、必要に応じて、個人面接をしている。  (外部評価) 個人面接などの機会はあるが、言えない人もいるので、普段の話の中から読み取るようにしている。職員が少ない時は、ユニット間で協力している。また、他の施設との代表会などで改善点を検討し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の日頃の努力、勤務状況を毎日観察し、職場環境が良くなるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員一人一人必要と思われる研修に参加できるよう調整したり、ホーム内での定期学習会を開催している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修や、他のホームの行事に参加することで、ネットワークを広げたり、お互いのサービスの質向上につなげている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 信頼関係が築けるまで、特にコミュニケーションを大切にし、不安や要望に耳を傾け、ご本人の気持ちを受け止め、関係が築けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 御家族との話を聴く機会を増やし、できる限りカンファレンスに参加していただき、不安や要望にみみを傾け、その思いを受け止め、関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前から管理者等から情報提供を受け、職員と意見交換しながら、その方にあったサービスが提供できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者の思いを尊重し、プライドを傷つけないよう、言葉かけに注意している。毎日の生活を通して、共に笑い、悩み、暮らしを支えあう者として、関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会、面会時などに、家族の思い・考え・要望を聴き、入居者がより良い生活が送れるように共に検討している。また日頃から、気軽に声をかけられ、話しやすい環境を整え、感情が表出しやすいように配慮している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前の生活状況・環境を良く知り、これまでの馴染みの関係が途絶えることがないように、電話・手紙などでの交流や実際にその場に行き、会って話す機会をつくっている。  (外部評価) 利用者の友達が遊びにきてフロアで話して帰ったり、家族の面会も多く、お孫さんがひ孫を連れてきたりすることもある。デイサービスの利用から入居した人などは、隣のデイサービスに遊びに行ったり、友達を連れてきたりしている。一人ひとりの人間関係や馴染みの美容院・理髪店など、継続的な交流を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 互いに助け合う場面があり、長い経過の中で、それぞれの居場所が確保されている。必要に応じて、職員が間に入って、良い関係が保てるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 施設入居や、入院した場合でも連絡したり、面会に行き、その後の状況の把握に努めている。必要に応じて相談にお受けている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時の情報や会話の中から、意向の把握に努め、一人一人の生活パターンに応じた支援を心がけている。  (外部評価) 一対一での会話を重要と考えて、昔話を聞くなど自然な形で本人の希望や意向の把握に努め、自宅に帰りたい人には外出支援をするなどケアに活かしている。困難な場合は、家族から情報を得ることもある。細かく記録をし、職員でも共有して、どのような暮らし方が最良なのか検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時の本人・ご家族から情報収集したり、関係機関からの情報を大切にしている。また、入居者との会話の中から、これまでの生活環境の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者個々の状態を、介護記録や連絡ノート等の活用で把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 入居者の担当職員、計画作成担当者を中心に、カンファレンスを行い、本人・ご家族の要望を確認しながら、個別性のある介護計画の作成に努めている。また、計画変更の必要性の有無は毎月点検している。</p> <p>(外部評価) 職員、利用者、家族（参加できない人にはコピーを送る）みんなで話し合い、本人本意の介護計画を作成している。各ユニットにケアマネジャーと計画担当者があるので、細かいところまで目が届き、職員からの意見も汲み取りやすい。状況に応じた迅速な見直しも行っており、次に繋げている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別に記録し、重要な点については、蛍光ペンで線を引いてどの職員にもわかるように工夫している。ケア内容の変更は計画書に赤字で追加し工夫している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 職員体制を整え、受診支援、入退院の連絡調整、情報収集、緊急時の家族の宿泊など、その時々状況・要望に応じた支援をしている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 警察、消防、学校等の協力が得られるよう働きかけている。本人を支えてこられた様々な方を知り、その方たちの協力を得て、豊かな暮らしができるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) できる限り入居者・御家族の希望するかかりつけ医が 継続できるようにしている。かかりつけ医との関係を 築きながら、必要な医療が受けられるよう支援してい る。	
			(外部評価) 馴染みの医師による継続的な受診や、本人および家族 の希望を大切にしている。入居前からのかかりつけ医 は、個人病院の場合は職員が通院介助をし、総合病院 など待ち時間のかかる病院の場合は、家族の協力を得 ている。説明が必要な時などは職員も同行し、適切な 医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日の様子とバイタルサインを介護職員が確認し、い つもと違う症状や値のときは看護職員に相談してい る。必要に応じ、医師に報告し、指示を受けたり、受 診の介助をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはできる限り職員が同行し、介護サマリーに て情報提供している。入院中は面会に行き、療養の様 子を確認し、退院に関して、担当医師、病院職員と相 談している。必要に応じて退院カンファレンスに参加 している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合やターミナルケアに関しては、入居時 から説明し、状況に応じて再度説明し、柔軟な支援が できるように取り組んでいる。職員全体でターミナル ケアに関して学ぶ機会を持つようにしている。	
			(外部評価) 終末期のあり方についてのマニュアルは具体的で、対 処方法など細かいノウハウを職員が共有でき、家族の 不安を取り除く努力をしている。すでに看取りの経験 もあり、看護師が24時間体制で対応し、医師も5分 程度で来られる体制なので、職員も安心して支援でき る。	医師・看護師・介護福祉士・ケアマネジャー・介護士 などスタッフに恵まれているが、職員のストレスなど にも留意しながら、今後もチームケアの勉強を継続さ れることを期待したい。



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命講習に参加したり、所外研修に参加したり、ホームの学習会で、応急手当や初期対応の実践力を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害マニュアルを作成しており、地域の防災訓練にも参加し、ホームでも災害訓練を行い、地域のかたに参加していただいております。  (外部評価) 地域住民の協力を得て年2回の防災訓練を実施している。車いすの人をホーム2階から降ろす訓練や、夜間を想定しての抜き打ちの職員召集なども行っている。ホーム内にも自主防災班があり、倉庫には水・食料・衛生用品などを備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の誇りを尊重し、それを損なわない言葉かけを心がけている。職員同士で尊厳・プライバシー確保の大切さを話し合う機会がある。  (外部評価) おむつ交換の時は部屋のドアを閉めて行い、トイレ誘導は利用者の様子を見ながらさりげないケアに努めるなど、職員は利用者一人ひとりの気持ちや人格を尊重しながら、言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 希望を聞いたり、意思表示のできない方は、ちょっとした仕草や表情から読み取ったり、ご家族に確認しながら決定を促している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者のその日の体調や意向を確認しながら、生活リズムを大切に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その日の服装を職員と一緒に考え選んでいる。また、ほとんどの入居者が出張美容院を利用されているが、ご家族と行きつけの理・美容院に行かれる方もおられる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べたいときに、食べたいものを摂取していただけるようにしている。入居者と職員が同じテーブルで一緒に食事をしている。料理の下ごしらえ、食器拭きなど入居者と一緒に行っている。 (外部評価) 代表者の家族が自家栽培の野菜も活用し、献立を立てている。利用者の誕生日には、その方の希望を優先している。健康に注意しながらも利用者の希望を第一に考え、お好み焼きなど急な希望が出ても臨機応変に対応している。職員と共に食事と会話を楽しむことを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の食事、水分の摂取状態をチェックし、体調によって食事形態の工夫をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケア、義歯洗浄剤の使用、口腔内の炎症がないか点検し、一人一人に応じて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 個別に排泄パターンをアセスメントし、個々に応じた、声掛け、誘導をしている。排泄パターンがつかみきれない場合でも、清潔で気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。	
			<p>(外部評価)</p> 職員は、トイレに行こうとするサインを読み取るなど、個々の排泄パターンを把握し、自立にむけた支援をしている。一人ひとりの情報を記録し、職員全体が共有するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 食事に気をつけたり、適度な運動、マッサージなど個々に応じた予防をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 入居者の希望に沿って、入浴支援をしている。	
			<p>(外部評価)</p> 就寝前の入浴を希望する人、一日2回シャワーとお風呂を希望する人、毎日入浴を希望する人など、一人ひとりの希望や本人の体調に応じた入浴を支援している。嫌がる人にはタイミングを見計らって、週2回の入浴を目標に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> 一人一人の活動リズムを大切に、外気浴をしたり、寝る前に温かい牛乳を飲んでもらったりしている。その方の生活習慣に応じて安眠できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 使用薬の説明書を個別にファイルし、変更があれば、その都度修正している。作用・副作用、用法などわかるようになっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生け花、外食、散歩、買い物、料理、洗濯など個々の生活歴や力に応じて役割があり、日々に生活の張りや楽しみになっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 入居者の希望にできるだけそえるよう外出支援している。遠出するときや、花見のときなどは御家族の方に協力していただいている。  (外部評価) 車いすでも外出できるよう、前庭に東屋風の休息所を作っており、地域の人が立ち寄りやすい環境になっている。ホーム前の喫茶店を利用したり、ショッピングや花火を見に出かけたり、また天気の良い日には近くを散歩したりするなど、個人の希望に合わせた外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理能力のある方は本人に所持していただいている。困難な方は金庫に預かり、必要時に出している。出納は専用の用紙に記入し、ご家族に確認していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 日常的に電話は利用できる。話す内容が聞かれない方には子機を使用し、居室で電話していただいている。ホームに住所移動されておられる方もあり、個人宛に手紙が送られてくる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 随所に空気清浄機を設置している。共有部分であるホールにはソファがあり、絵画や見やすい時計、生け花、いつでも音楽が聴けるようになっている。生活感や季節感を感じることができるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 前庭の東屋、ホタルを飼育している川、金魚に餌をやることのできる池など、ホーム周辺を共用空間の一部と捉え五感を刺激する工夫がある。花壇の花は、生け花を好む利用者のために自由に切ることができる。各ユニットごとに、居間のソファの配置などを利用者の好みに合わせて変えられるよう配慮している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 居室は個室で自分の空間として過ごしていただける。ホールに出ればソファがあり、ゆったりと思いついた場所で過ごされ、会話を楽しんだり、編み物、読書などをされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れたタンス、時計、写真が飾られ、居心地のよい居室になるようにしている。仏壇を居室に置き、お供えなどもされている方もおられる。</p> <p>(外部評価) 居室には、仏壇をはじめ各自が自宅から馴染みのものを持ってきている。カーテンも防炎加工であれば、好みのものを付けられる。壁にはフックがあるので、飾り物を吊ったり洋服を掛けたり、使いやすい工夫がされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 認知症の程度や判断力に応じて、安全に生活できるように居室、トイレ、浴室などに大きく表示したり、家具の配置を工夫している。</p>	